

Urban Safari

[アーバンサファリ]

Nov.2018 Vol.07

Cover Story

ダン・スティーヴンス

Watches speak louder
than words!

大人の魅力を語る時計。

Sassoun Sirmakes

サスン・シルマケス / クストス CEO

写真=奥田高文
photo: Takafumi Okuda

時代が求めた新しい価値観で 高級時計界に新風を吹きこむ。

時計界で新興勢力として注目されているブランドがある。それが〈クストス〉。CEOであるサスン・シルマケスは共同経営者のアントニオ・テラノヴァとともに2005年にブランドを設立。果たして急成長を遂げた要因はどこにあるのか？

「すべては情熱からはじまりました。ですが、それだけでは続きません。ビジネス的な観点から最初に3つのベース作りに注力しました。ひとつめはお客様に気に入られるデザインで、ほかと差別化できる製品作りです。次に、製品を正確に効率よく作れる製造能力。そして3つめが製品を流通させるディストリビューション。この3つがうまくいったので、〈クストス〉が急成長したのです。今後はコミュニケーションに力を入れて、ブランドをもっと知ってもらいたいですね」

実は、フランク ミュラー グループの共同オーナーであるヴァルタン・シルマケスを父親に持つ彼。17歳で〈フランク ミュラー〉で時計の修業に入り、ビジネスをはじめたのが22歳。若いときから時計業界を知っていることも強みになっているのだろう。さらに彼には時代を読む力も備わっているようだ。

「成功した人が高級時計を手にするのはどの国も一緒です。ところが最近、そんな人の時計選びの状況が少しずつ変わってきていると感じています。10年前なら成功者はクラシックなデザインの時計を選ぶのが当たり前でしたが、今は違う。高級品の分野でも見かけが重要で、お客様もこれまでとは全く違った価値観のある時計を求めているのです。〈クストス〉はそんな人のライフスタイルにぴったりの時計です。そういった価値観の変化も、〈クストス〉が多くの人に受け入れられている要因のひとつかもしれません」

現代のモダンな感覚を時計で体現する〈クストス〉。新しい価値観がここにある。

〈クストス〉

スイス・ジュネーブを本拠地とする〈クストス〉。緻密なムーブメントをあえて見せるスケルトン仕様や、トノウ型ケース(一部丸型やスクエアケースもあり)がブランドのアイコンに。新時代を切り開くハイテクウォッチとしても名を馳せ、グレード5のチタンやタンガステン、カーボンなどを素材として多用。モデルによってはゴールドやダイヤをあしらひ、より贅沢な時計の価値を創出する。

Contents

- 08 Cover Story ダン・スティーヴンス
- 11 in Your Closet
- 18 大人の品格時計はみんなカフスの収まりがいい。
- 29 Thierry Marx's Philosophy FUTURE FOOD
- 35 For First Class Passenger AIRPORT LOUNGE
- 36 そろそろ貫禄に見合ったコートを着てみよう。
- 41 To the Mysterious World! SUITEROOM IN BLUE
- 42 Gastronomic City BANGKOK
- 43 Sporty Elegance in COUPE STYLE

発行人 Publisher

榊原達弥

Tatsuya Sakakibara

編集長 Editor in Chief

藤原 晃

Akira Fujiwara

広告部長 Advertising Director

成井 毅

Tsuyoshi Narui

コントリビューティング・エディター&ライター
Contributing Editors & Writers

大嶋慧子

Keiko Oshima

九島辰也

Tatsuya Kushima

古関千恵子

Chieko Koseki

柴田 充

Mitsuru Shibata

たかせ藍沙

Aisha Takase

中村孝則

Takanori Nakamura

渡邊ひかる

Hikaru Watanabe

アートディレクター

Art Director

藤澤拓也

Takuya Fujisawa(ANAGUMA)

デザイナー

Designer

渋谷裕子

Yuko Shibue(ANAGUMA)

発行

株式会社日之出出版

〒104-8505東京都中央区八丁堀4-6-5

編集 ☎03-5543-1135

広告 ☎03-5543-1139

●本誌掲載商品の価格表示はすべて本体のみ(税抜き)の価格です。
●本誌内の記事及び写真、イラストなどの無断複写、複製、放送などを禁じます。
●本誌の編集内容に関するお問い合わせは編集部直通 ☎03-5543-1135 までお願いいたします。
なお、土・日・祝日はお休みとなっております。

昨 年の大ヒット映画『美女と野獣』で、美声を轟かせていた男を覚えているだろうか。といっても、美声の持ち主の顔まで思い浮かべられる人は少ないかもしれない。なにせ彼が演じていたのは、大団円を迎えるラストシーンまで、ほぼ全編“野獣”の姿をしていた王子なのだ。自身の出演作史上最大のヒット作で、彼とは判別不可能なほどの姿を見せているとは。しかも、そんな役を嬉々として演じているとは。どうやらこの男、俳優としての遊び心を持ち合わせているようだ。実際、『美女と野獣』の公開前にインタビューすることができた際も、「役者にとって大事なものは遊び心。なにかにこだわりすぎるとは、その場を楽しむべきなんじゃないかな」と語っていた。

そのダン・スティーヴンス。まずは、印象的なアイスブルーの瞳を持つ2枚め俳優が、『美女と野獣』に至るまでの道のりを振り返りたい。多くの成功したイギリス人俳優同様、全寮制の名門男子校出身のスティーヴンスは、ケンブリッジ大学に進学して英文学を専攻。入学早々演劇サークルに所属し、

数々の舞台に立って演技の才能を開花させた。ということ。つまり、芝居の魅力にはじめて触れたのは、それ以前の男子校時代。「学芸会で演じた役が、俳優となった僕の運命を決めたといってもいいかもしれない。舞台上上がったとき、”うわっ、いい気持ちだな。これはいいぞ！僕はこれから先、この瞬間をもっと味わうべきだ”と思ったんだ(笑)」と明かしている。

直感と運命に従ってそのままプロの道を歩みはじめたスティーヴンスが、世界的にブレイクを果たしたのは2010年。英国ドラマ『ダウントン・アビー』の放送がはじまってからのことだ。20世紀初頭のイギリスを舞台にした同作で、彼は伯爵家の財産を相続することになる遠縁の男性マシュー・クロウリー役を好演。貴族の血は引くものの庶民派で、やがて伯爵家に新風を吹きこみはじめるマシュー役が、女性を中心とする視聴者の心を掴むのに時間はかからなかった。スティーヴンス自身も、『ダウントン・アビー』は大きな転機だった。世界中でヒットしたことには驚かされたけど、あの作品があったから、その後たくさんの素晴らしいことが僕の身に起きたと思っている」と認めている。しかしながら、ドラマの人気ピークを迎えた2012年、スティーヴンスは『ダウントン・アビー』を降板。マシューも物語の中から去った。降板理由は、“新たな挑戦のため”。有言実行とばかりに、『ダウントン・アビー』後の彼は好青年だったマシューからかけ離れた役を好んでチョイスした。スリラー映画『ザ・ゲスト』で主人公一家を恐怖のどん底に突き落とす謎の帰還兵を演じたのも、サスペンス映画『誘拐の掟』で妻を殺害された麻薬仲介人をワールドに演じたのも、大人気コメディのシリーズ第3作『ナイトミュージアム/エジプト王の秘密』で円卓の騎士ランスロットを演じたのも、すべて降板後しばらくしてからのこと。これらはすべてアメリカ映画で、ハリウッド進出にも積極的なのがわかる。「ある作品にかかわったら、その次には全く違うタイプの作品を選ぶようにしている。そうすることでいろいろなチャレンジができるしね。もちろん、巡り巡って以前の出演作に似たタイプの作品に出ることもあるけど、直近の役柄と違ったものでありさえすれば、自分を新鮮に保つことはできると思う。それが、前に進んでいくということ。難しいことを常に探している、ともいえるね」というスティーヴンス。彼にとって、イギリスからハリウッドへ、貴族の好青年からダークなアメリカ人キャラクターへの道は、まさに必然だったといえるかもしれない。

ならば、『美女と野獣』の世界的大ヒットで、スティーヴンスは“野獣”からの脱却を試みなくてはならないのか。いま

PROFILE

1982年、イギリス生まれ。舞台を中心にキャリアを積みながら活躍の場を広げ、ドラマ『ダウントン・アビー』でブレイク。近年の映画出演作に、世界的に大ヒットした『美女と野獣』をはじめ、『嘘はフィクサーのはじまり』『シンクロナイズドモンスター』『結婚まで1%』『リディバイダー』『マーシャル 法廷を変えた男』『アポロ13 復讐の掟』などがある。現在、『X-MEN』シリーズから生まれたドラマ『レギオン』に出演中。読書家として知られるほか、熱心な宮崎駿ファンでもある。

“It's foolish, I suppose for a creature like me to hope that one day he might earn your affection.

愚かな願いだろうか、私のような化け物がいつか君の愛を得たいと願うのは。

——『美女と野獣』から

写真=Larry Busacca/Contour by Getty Images 文=渡辺ひかる
photo:Larry Busacca/Contour by Getty Images text:Hikaru Watanabe

や出演オファーが後を絶たない状況で取った方法は、以前にも増してスマートだ。『美女と野獣』の完成を待つ間、彼はドラマ『レギオン』に出演。「作品自体も撮影も、とんでもなくクレイジーだった(笑)」という『レギオン』はアメコミを原作にした異色作で、演じるのは、特殊能力を持つがゆえに精神病と診断されてきた主人公。そのダークで奇天烈な作品世界は、もちろん『美女と野獣』から薫るディズニーテイストとは異なる。『レギオン』は今年になってシーズン2が放送され、シーズン3の制作も決定済み。俳優ダン・スティーヴンスの代表作とはいえば、『美女と野獣』の“野獣”と答える人もいれば、『レギオン』の強力な超能力者デヴィッド・ハラールと答える人もいる。現在はそんな状況だ。

そして、彼の日本公開作品群にまた1つ加わるのが、『Merry Christmas! ~ロンドンに奇跡を起こした男~』だ。本作はイギリス

の文豪チャールズ・ディケンズが、名作『クリスマス・キャロル』を書き上げるまでの物語。『オリヴァー・ツイスト』などで一世を風靡した後、スランプに陥って苦悩する生身のディケンズを、ユーモアも交えながら魅力的に演じている。出演オファーを受けた当時を振り返り、「この作品はうやうやしい伝記映画ではなく、才能ある芸術家の創作活動とプレッシャーを描いた物語。当時のディケンズには4人の子供がいて、生まれてくる子も1人いた。この脚本を読んだ当時、僕自身にも生まれてくる子がいたから共感できた」と語っているスティーヴンス。ちなみに、脚本を受け取った時期に心待ちにしていた“生まれてくる子”とは、2016年に誕生した第3子のこと。「娘の誕生は、僕の2016年における最も素晴らしい瞬間」ともいい、華やかな映画界で地に足を付けていられるのは「妻と子供たちのおかげ。家族に助けられ、今の自分がある。それこそが、僕の大切な人生」と感謝を口にしている。

『Merry Christmas! ~ロンドンに奇跡を起こした男~』でディケンズは自身を見つめ直し、家族の愛を実感し、名作を生む。そんな文豪同様、家族の愛を糧に、現状と果敢に向き合ってきたダン・スティーヴンス自身も、名作に出会い続ける人生を歩まんとす！

DAN STEVENS

【ダン・スティーヴンス】

『Merry Christmas! ~ロンドンに奇跡を起こした男~』



1843年10月。スランプに陥っていた作家ディケンズ(スティーヴンス)は起死回生を狙い、クリスマスを題材にした小説を書くことに。だが、クリスマスまでに本を出版するには、6週間で書き上げなくてはならない。執筆に没頭するうち、ディケンズは小説の世界に入りこんでしまっ……。
●11月30日より、新宿バルト9ほかにてロードショー

©2017 HARBOLD FILMS INC & PARALLEL FILMS (TM) NO. 170 2017



in Your

CLOSET***大人の風格がにじみ出るファー付きコート。**

冬の街角に佇むだけで絵になる男。シンプルなスーツと、自信に満ちた表情と。そんな身のこなしに、**〈ジョルジオ アルマーニ〉**の上質なコートが風格を添える。短い丈だから、フットワークも軽くなる。

写真=野口貴司 スタイリング=中川原 寛 ヘア&メイク=松本 恵、Hanjee 文=野中邦彦 構成=大嶋慧子
photo: Takashi Noguchi styling: Kan Nakagawara(CaNN) hair&make-up: Megumi Matsumoto(es*QUISSE), Hanjee(Signo)
text: Kunihiko Nonaka(OUTSIDERS Inc.) composition: Keiko Oshima

COAT**ジョルジオ アルマーニの
アビエーターコート**

シアリングムートンの襟にミリタリー感が漂うこの1着は、堂々とした見た目が魅力。冬のスーツスタイルに凛とした空気をもたらしてくれる。スーツの上着がちょうど隠れるくらいの短めの丈で、重くならず颯爽とした印象に。それでいて〈ジョルジオ アルマーニ〉ならではの風格を宿し、ビジネスシーンでも着られる落ち着きを備えているから頼もしい。ちなみにモコモコとしたボア使いは、今季らしいディテール。貫禄ある大人によく似合う。

ムートンファー付きショート丈コート58万円、チャコールグレースーツ53万円、シャツ8万7000円、ニットタイ参考商品、ストール参考商品、グローブ7万2000円、バッグ17万5000円(以上ジョルジオ アルマーニ/ジョルジオ アルマーニ ジャパン)

Giorgio Armani / ジョルジオ アルマーニ

in Your

CLOSET*

男のドレスアップはブルーからはじまる。

冬空を思わせる淡いブルーから、ミッドナイトの妖艶なブルーまで、男の装いに欠かせないのが青という色。最も上品かつ男らしいネイビーを起点に、どんなブルーをどう使うか。それが洒落者の腕の見せどころ。



WATCH

ウブロの“クラシック・フュージョン
チタニウム ディープブルー”



BRACELET

フレッドの
“フォース10”プレス



LIGHTER

エス・テール・デュボンの
“ル・グラン エス・テール・デュボン”



SUIT

ボスの“3ピーススーツ”

D

火をつけると柔らかなダブルフレームが立ちのぼる。ゆっくりと炎をシガーに当て、その薫りを楽しむ。そんな一連の動作はきっと優雅に見えるはず。〈ル・グラン エス・テール・デュボン〉の新色は、ブルーのグラデーションが魅力的。ローラーを上にはスライドすればトーチフレームの力強い炎に切り替わる。

ライター 21万1000円、灰皿4万1000円(以上エス・テール・デュボン/エス・テール・デュボン 銀座ブティック)

C

落ち着いた大人の腕時計という表現がしっくりくる〈ウブロ〉の“クラシック・フュージョン”。深い海を思わせるディープブルーの文字盤は、日本限定となるもの。エッジでシャープなチタニウムケースは、都会的でスーツ姿によく馴染む。特にブルー系のスーツには好相性で、品格に加えスマートさも映し出す。

腕時計77万円(ウブロ/LVMH ウォッチ・ジュエリー ジャパン ウブロ)、スーツとシャツはBと同じ

B

サッカードイツ代表や、スペインのレアル・マドリードに公式スーツを提供してきた〈ボス〉。戦う男たちのネイビースーツ姿は、なんとも凛々しく、洗練されていた。そんなスピリットを受け継ぎつつ、ストレッチ性の生地を用いたのが、この3ピース。エレガントな襟付きベストが、胸元に立体感を生み出してくれる。

3ピーススーツ12万5000円、シャツ1万9000円、ネクタイ参考商品、チーフ参考商品、イスにかけたコート21万円(以上ボス/ヒューゴ ボス ジャパン)、時計はCと同じ

A

〈フレッド〉の“フォース10”に見られるヨットのシャクルモチーフのブレスレットは、男女を問わず身につけられて、さりげなく海を感じさせてくれる。幅広い新作レザーカフブレスは、パーティでも活躍しそう。ブラックレザーを編んだタイプであれば、普段の手元にも。どちらもシックな印象を添えてくれる。

右: ブレイディッドレザーブレスレット43万1000円、左: レザーカフブレスレット27万9000円(以上フレッド)

in Your

CLOSET*

パーティにも、くつろぎのひとつときにも似合う1足。

くつろいだ時間にふさわしい足元は、なにもスニーカーとは限らない。あえてレザーシューズを選ぶのも、大人の遊び心のひとつ。もちろん上質であること、個性的であること、軽い履き心地であることが条件だ。

SHOES

クリスチャン ルブタンの“グレゴリー”

トウはカーフスキン。そして個性的なツイル生地を挟んで、シューレースのないスウェードの内羽根に切り替わる。そんなユニークなデザインでありながら、決して奇をてらった印象にならないのが、このシューズ。大人の装いにじっくり馴染み、履き心地は非常に快適だ。もちろん、このブランドのアイコンとなっているレッドソールが目をはくが、それもまたエレガントな遊び心。パーティはもちろん、ゴージャスなホテルのバーカウンターに似合いそうな佇まいだ。

シューズ11万9000円、横に置いたバッグ28万5000円(以上クリスチャン ルブタン/クリスチャン ルブタン ジャパン)、パンツとソックスはスタイリスト私物

in Your

CLOSET*

素材へのこだわりが男を磨く。

上質感をもたらす要素はいろいろあるが、なかでも“素材”ほどわかりやすく、そして難しいものはない。やみくもに高級素材をひけらかすのは野暮というもの。要所にさりげなく効かせて、その魅力を生かしたい。



JACKET

ベルルッティの
“ベルベット ジャケット”



WATCH

ゼニスの
“デファイ クラシック”



CUFF LINKS

ブシュロンの“キャトル ブラック”
カフリンクス



LEATHER ITEM

サンローランの“クロコSLG”

D

こだわりが表れる装飾品のひとつが、カフリンクス。チラッと見えたときに、その人の趣味のよさがわかるというもの。〈ブシュロン〉の伝統的なモチーフをあしらった逸品はシンプルでエレガント。オニキスとホワイトゴールドにブラックPVDを効かせたデザインは、どこかロックなスピリットを感じさせる。

カフリンクス(セット価格)75万円(ブシュロン/ブシュロン カスタマーサービス)、ジャケットとシャツはCと同じ

C

光沢感のあるベルベット素材は華やかな場にふさわしいもの。パーティシーンのイメージが強いかもしれないが、こんなシックなグレーなら普段使いもスマート。もちろん、サテンの切り替えになったラベルや、共布でカバーした1ボタンの作りなど、華やかなシーンにふさわしいディテールも備えている。

ジャケット40万9000円、パンツ13万9000円、ネクタイ3万円、ストール7万円(以上ベルルッティ/ベルルッティ・インフォメーション・デスク)、時計はAと同じ、シャツはスタイリスト私物

B

クロコダイルにカーボンコーティングを施し、マットなテクスチャーに仕上げたスモールレザーグッズ。その印象は極めてモダン。力強く洗練されたデザインで、ビジネスシーンから旅先まで幅広く使えそう。控えめでありながら、最先端の技術を取り入れているという点も、男心をくすぐるポイントになっている。

クラッチバッグ50万9000円、左の財布12万9000円、右のカードケース7万2000円、メガネ3万9000円(以上サンローラン バイ アンソニー・ヴァカレロ/イヴ・サンローラン) 帽子はスタイリスト私物

A

〈ゼニス〉初となるスケルトン仕様で、超薄型キャリバー“エリート”の精緻な動きが楽しめる1本。メカニカルな面白さがありつつ、アリゲーターとラバーを組み合わせたストラップにより、スーツやジャケットにも似合う上品な顔つきに仕上げている。41mmのケース径も大人の手元にちょうどいい。

腕時計70万円(ゼニス/ゼニス プティック銀座)、ジャケットとシャツとネクタイはCと同じ

AUDEMARS PIGUET

[オーデマピゲ]

ドレシーかつスポーティな
現代ラグスポウォッチの伝説。

時計デザイナー、ジェラルド・ジェンタが手掛け、1972年に誕生した〈オーデマピゲ〉“ロイヤル オーク”。そのスタイルから“ラグジュアリー・スポーツウォッチ”の元祖にして究極と讃えられ、時計通の間で通称“ジャンボ”の名で呼ばれる時計界の伝説だ。その初代モデルを忠実に復刻したのがこのモデル。スポーティにして繊細。腕に吸いつく極上のフィット感。その魅力は46年の時を経た今、さらに輝きを増すばかり。この革新的な腕時計の真価を毎日、それもゴールドの贅沢な輝きとともに楽しめるとしたらこれ以上の幸福はない。ブラックタイで正装したフォーマルなパーティから、Tシャツにジーンズのガーデンパーティまで、あらゆるシーンとファッションにフィットし、大人の男を輝かせる腕時計。ひと目でそれとわかるエッジで美しいデザインも誇らしい。



ロイヤル オーク・“ジャンボ” エクストラ シン

文字盤を飾るギョーシェ彫りのフチ・タペストリー模様は、ロイヤル オークのエクストラ シンならではの、細かく繊細なデザインが堅牢なケースと美しいコントラストを生む。ケース径39mm、ケース厚8.1mm、自動巻き、18KPGケース&ブレス、50m防水。580万円(オーデマピゲ/オーデマピゲジャパン)

VACHERON CONSTANTIN

[ヴァシュロン・コンスタンタン]

時計愛好家を虜にする
不滅の1950年代スタイル。

時計愛好家が絶賛を惜しまないのが、薄型ドレスウォッチ“バトリモニー”コレクション。無駄のない美しさを、繊細かつ端正なラインで実現。そのスタイルは、スイス時計が世界の頂点を極めた1950年代にルーツを持つ。今回ご紹介する右の自動巻きモデルは、手巻きモデルと変わらず端正で美しいもの。彫刻加工が施された22Kゴールドローターの下で息づく、ジュネーブ・シールを取得した自動巻きムーブメントをケース裏から愛でられるのもこの腕時計の大きな楽しみのひとつだ。1755年にジュネーブで創業して以来、王侯貴族などのセレブを顧客に、250年以上も途絶えることなくエレガントな時計作りを続けてきた〈ヴァシュロン・コンスタンタン〉。あらゆるカテゴリーで最高の時計作りを展開するが、このバトリモニーこそ品格ある大人にぴったりなのは言うまでもない。



バトリモニー

比較的に長く、すっきりと見えるバーインデックスが落ち着いた文字盤の上でエレガントな表情を見せる。12、3、6、9時位置のみクサビ型にするなど、芸が細かい。ケース径40mm、ケース厚8.55mm、自動巻き、18KWGケース、アリゲーターストラップ、3気圧防水。296万円(ヴァシュロン・コンスタンタン)

HARRY WINSTON

[ハリー・ウィンストン]

シンプルな文字盤に
華麗な輝きを秘めて。

アメリカ最高峰のジュエラー&ウォッチメイカー〈ハリー・ウィンストン〉。このブランドがフォーマルな装いを楽しむ男性のために作った薄型ドレスウォッチは、とにかくシンプルで美しさを追求したもの。サンバースト仕上げの文字盤は見た目には控えめ。だが光が当たると、その角度に応じ、文字盤の中心部から外周部に向かって多彩に煌めいて、手元に華を添えてくれる。また、ニューヨーク5番街にある〈ハリー・ウィンストン〉本店のファサードを象った造形がリュウズ部分のベゼルに施され、〈ハリー・ウィンストン〉のウォッチであることをさりげなく、だがしっかりと主張。ケースと同じホワイトゴールド素材の植字インデックス、針と文字盤のサイズバランスも絶妙。カジュアル使いでも主張しすぎない確かな存在感で、大人の時間を優雅にドレスアップしてくれる。



HW ミッドナイト・オートマティック 42mm

タイムレスでクラシカル。最上級のシンプルをエレガントに体現したのが“HW ミッドナイト・コレクション”。ケース径42.5mm、ケース厚8.9mm、自動巻き、18KWGケース、アリゲーターストラップ、3気圧防水。245万円(ハリー・ウィンストン/ハリー・ウィンストンクライアントインフォメーション)

エレガントに見えるには“薄さ”がモノをいう。

大人の品格時計はみんな
カフスの収まりがいい。

欧州に拠点を置くデザイナーに「エレガンスとはなにか?」と聞いたことがある。返ってきた答えがこうだ。「雑然としたものはエレガントではない。シンプルで無駄のない様。もちろん美しくなくてはいけない」と。腕時計でいうと、ドレスウォッチがエレガンスを宿すもの。なかでも薄型のタイプはまさにエレガンスの極み。普段はカフスの中に隠れ、座ってテーブルに腕を置いたりしたときに顔を出す。逆にいくら高級ブランドの時計をつけても、これみよがしなつけこなしは、ビジネスシーンでは野暮というものだろう。本当にいい刀は鞘に入っているもの。本当にエレガントで上質な時計は、カフスの中の収まりがいい。

文=渋谷康人 text=Yashito Shibuya

A. LANGE & SÖHNE

[A.ランゲ&ゾーネ]

厚さわずか5.9mmの空間に
ドイツの誇りと美学があふれる。

〈A.ランゲ&ゾーネ〉は特異な歴史を持つドイツの名門ブランド。19世紀から20世紀半ばまで、文化と工芸で世界をリードしたドイツ・ザクセン王国の宮廷時計師の伝統と技術を継承して1845年に創業。世界最高峰の地位を確立しながら2度の世界大戦と東西ドイツ分割に翻弄されて消えた悲劇を経験した。1990年のドイツ再統一を受けて1994年、創業者の末裔の悲願とともに奇跡の復活を遂げたこのブランド。一番の魅力は、機能でも美しさでも一切の妥協を許さないドイツ流のモノづくり哲学から生まれた、時計愛好家絶賛の機械式ムーブメント。それはケース厚わずか5.9mmのこの手巻きモデルでも変わらない。ムーブメントは一度組み上げてから分解して装飾、再度組み上げる“二度組み”で完成。直径28mm、厚さ2.9mmのこの“宝石”は、ケース裏から鑑賞できる。



サクソニア・フラッハ

サクソニア・フラッハは2011年に初登場。その間、シルバー無垢のダイヤル上にあるバーインデックスを若干長くするなど、さりげなくアップデート。ほかにWGケースも展開。ケース径37mm、ケース厚5.9mm、手巻き、18KPGケース、アリゲーターストラップ、3気圧防水。174万円(A.ランゲ&ゾーネ)

PIAGET

[ピアジェ]

極薄ウォッチのスペシャリストが
唯一無二の技術を惜しみなく凝縮。

極薄時計で名を馳せるのが〈ピアジェ〉。このモデルは、自動巻きでデイト付きの機械式腕時計としては最も薄く、ケース厚6.36mmという世界記録を持つ。シンプルな文字盤、ケース裏から鑑賞できる22Kマイクロローター式巻き上げ機構を持つムーブメント。眺めれば眺めるほどに、それらの洗練された美しさに魅了されるはずだ。機械式ドレスウォッチの開発と製造には、特別な技術とノウハウ、卓越したセンスが必要だが、〈ピアジェ〉は1957年に機械の厚さわずか2mmという伝説のムーブメント“キャリバー9P”を開発。以降、この分野で数々の世界記録を樹立した傑作モデルを世に送り出してきた。すべての部品を極限まで薄く小さくする技術。そしてそれを確実に動かすムーブメント。さらに、無駄を削ぎ落としたシンプルなデザイン。〈ピアジェ〉の時計は全く飽きることがない。



アルティプラノ

極薄ながら文字盤は3層構造で立体的。シンプルインデックスとダブルインデックスが織りなす繊細なスタイルに、クラシックなエレガンスが窺える。ケース径40mm、ケース厚6.36mm、自動巻き、18KWGケース、アリゲーターストラップ、3気圧防水。285万円(ピアジェ/ピアジェコンタクトセンター)

PATEK PHILIPPE

[パテック フィリップ]

時計史に残る傑作のDNAを
忠実に受け継ぐ現行モデル。

熱心な時計コレクターの多くが、アンティークウォッチの世界に魅せられたきっかけとして挙げるのが、〈パテック フィリップ〉の男性用ドレスウォッチ“Ref.96”。そして、そのDNAを受け継ぐのがこの“Ref.5196”。ちなみに“Ref.96”は、1932年に誕生した1970年代初頭まで作り続けられた名作。バーインデックスとシャープなドフィーヌ針で構成される、完璧なバランスを持つシンプルな文字盤。カナと呼ばれる小さな歯車の歯のひとつひとつまで磨き上げた宝石のように美しいムーブメント。時計関係者の間では“クログ”と呼ばれ、今でも圧倒的な人気を誇っている。その一方で“Ref.5196”は、時計界でも最も厳しい品質精度基準“パテック フィリップ・シール”が保証する機械式モデルとしては、最高峰の精度を誇るもの。これこそ世代を超えて受け継ぐ価値のある逸品だ。



カラトラバ 5196

6時位置にスモールセコンドを備えた、シンプルで格調高いデザイン。奇をてらうことのない不朽の形がここにある。ケース径37mm、ケース厚6.8mm、手巻き、18KYGケース、アリゲーターストラップ、3気圧防水。220万円(パテック フィリップ/パテック フィリップジャパンインフォメーションセンター)

CARTIER

[カルティエ]

1世紀を超えて甦った
優雅な1920年代スタイル。

レディスはもちろん、メンズウォッチでも20世紀の初頭から現在まで、常にトレンドセッターとして頂上に君臨する〈カルティエ〉。時代を超えて愛される定番コレクションは多数。なかでも様々なスタイルで時計好きを魅了するのが、第一次大戦に登場した戦車(タンク)からデザインの着想を得たというドレスウォッチ“タンク”。そしてこの冬、その伝説のタイムピースのひとつが、約1世紀の時を超えて甦った。それが右の“タンクサントレ”。1980年代に誕生したレクタンギュラー(角型)モデルの定番“タンク アメリカン”の原型にして、伝説のミュージカルスター、フレッド・アステアも愛したという逸話を持つ。縦に長いケースだが、腕のカーブに沿うようになめらかな曲線を描いているため、つけ心地が素晴らしい。是非カフスの中に忍ばせて、エレガンスを語ってほしい。



タンク サントレ

右のタイプのほか、イエローゴールドケースにゴールド製ダイヤルとブラウンアリゲーターストラップをあしらったタイプも用意。ケースサイズ23×46.3mm、ケース厚7.2mm、手巻き、18KPGケース、アリゲーターストラップ、3気圧防水。222万円(カルティエ/カルティエカスタマーサービスセンター)



**TAG Heuer CARRERA
Calibre 16 Chronograph
Japan edition**

[タグ・ホイヤー カレラ キャリバー16 クロノグラフ ジャパンエディション]

人気の高いキャリバー16を搭載したタグ・ホイヤー カレラ キャリバー16 クロノグラフ ジャパンエディション。シャープなフォルムの中に、ローマ数字インデックスと白エースゴールドが洒落たアクセントを添える。日本限定400本。ケース径41mm、自動巻き、SSケース&プレス。48万5000円(タグ・ホイヤー LVMH ウォッチ・ジュエリー ジャパン タグ・ホイヤー)

TAG Heuer

日本限定の〈タグ・ホイヤー〉カレラなら
シックな文字盤で魅せつつも
ジャケット姿がスポーティ。

ジャケットやスーツを着たときに、あまり堅苦しくなるのは考えもの。それなら手元を工夫してみよう。日本限定となる〈タグ・ホイヤー〉の新作なら、エレガントでありながらスポーティに魅せられるはず。

写真=正重智生 スタイルング=中川原 寛 文=野中邦彦 構成=大嶋慧子
photo: Tomoo Szyjo(BOIL) styling: Kan Nakagawara(CaNN) text: Kumihiko Nonaka(OUTSIDERS Inc.)
composition: Keiko Oshima

©LVMH ウォッチ・ジュエリー ジャパン タグ・ホイヤー ☎03-5635-7054 www.tagheuer.com

英 国調のクラシック柄をビジネスシーンで着るのであれば、どこかにお洒落な遊び心を取り入れたいもの。たとえばこの千鳥格子のジャケットも、あまり真面目に着こなしてしまうとどこか若々しさのない印象になりかねない。少しヒネリのきいた小物使いでこなれた雰囲気を出したい。

そこで注目したいのが、日本限定モデルとして登場した「タグ・ホイヤー カレラ キャリバー16 クロノグラフ ジャパンエディション」。カレラといえば、モーターレースからインスパイアされたスポーティなデザインで人気。でも、この1本

をよく見てほしい。どこか見慣れない顔つきで、なんともエレガントな印象ではないだろうか。そう、現行コレクションにはないローマ数字インデックスを採用し、随所にローズゴールドを配した洒落なデザインなのだ。本来のスポーティさを残しつつも、より洗練された大人の雰囲気を感じたかのように。しかも日本人の手首に合う41mmのケース径というのも嬉しいところ。英国調のカッチリしたジャケットにマッチしつつ、さりげない遊び心と若々しさを加えるにはもってこい。冬のジャケットスタイルをアップデートしてくれる1本と言えそう。

**VANGUARD
YACHTING**

[ヴァンガードヨットイング]

〈フランク ミュラー〉の新たなフラッグシップを確立した「ヴァンガード」。優美な曲線を用いた大胆で力強いフォルム、立体的なアラビア数字のインデックス、ラグを排しケースとストラップの一体感を高めた構造などが特徴。この「ヴァンガード」をベースに、メガヨットによる航海の世界観を表現したラグジュアリースポーツモデル。ケースサイズ53.7×44mm、自動巻き、SSケース、クロコダイル×ラバーストラップ。110万円(フランク・ミュラー/フランク・ミュラーウォッチランド東京)



FRANCK MULLER

〈フランク ミュラー〉「ヴァンガード」は見るたびに
男を大海原へと連れ出し
進むべき方角を教えてくれる。

大海原をメガヨットで航海する快感と贅沢。そんな世界観を爽やかに表現したのが〈フランク ミュラー〉「ヴァンガード ヨットイング」の新作。羅針盤のようなダイヤルが放つダイナミックなラグジュアリー感が、男心を刺激する。

写真=正重智生 スタイルング=中川原 寛 文=松阿彌 靖 構成=大嶋慧子
photo: Tomoo Szyjo(BOIL) styling: Kan Nakagawara(CaNN) text: Yasushi Matsuami composition: Keiko Oshima

©フランク・ミュラー ウォッチランド東京 ☎03-3549-1949 https://franckmuller-japan.com/

航 海という言葉は、なぜこうも男心を揺さぶるのだろうか。煩雑な日常から離れて得た自由、自分が試されるようになりたく冒険、そして洋上での仲間との語り……。想像するだけでロマンが頭を駆け巡る。それがメガヨットでの航海であれば、なおさらだ。高級ホテルに優るとも劣らぬ洗練された居住空間や優雅な内装のメガヨットには、ラグジュアリーで甘美なセレブリティの世界が広がっている。そんな世界観を詰めこんだウォッチが「ヴァンガード ヨットイング」。1920〜'30年代のオール・デコ様式における直線と曲線とが織りなす美しさを追求したこのモデル。ヨットの優美な曲線を思わせるフォルムを持ち、ケースサイドにヨットのモチーフ、文字盤にウインド ディレクションの装飾を施すなど、ディテールに至るまでラグジュアリーヨットからのインスピレーションにあふれている。

既存のブルーダイヤルに代わって、新作ではホワイトダイヤルを採用。ストラップもホワイトで統一したことで、洗練されたエレガンスが薫り立つようだ。今すぐ果てなく広がる大海原へ……。そんな、はやる気持ちを抑えられなくなりそうな1本があれば、毎日が冒険になる。

世界を股にかけて活躍するエグゼクティブにとって、飛行機は馴染み深い存在。ただ、ことバカンスとなると、船での移動が贅沢だ。豪華客船で楽しむのんびりとした旅はもちろんだが、クルーザーやヨットで冒険するひとときもまた楽しい。いずれにせよ、船は海に対して夢や憧れを抱く男にとっては最高の遊びなのだ。

そんな海へのロマンを抱く男に、まさにぴったりな時計がある。それが、〈コルム〉のスポーツラグジュアリー時計として名を馳せる“アドミラル”。なかでも早くも登場した2019年の新作“アドミラ

ル レジェンド 42 クロノグラフ”にご注目。その名からもわかるとおり、この時計は“ガンブルー”の愛称で親しまれた'80年代発表のレジェンドのアーカイブピースを現代的にアレンジしたもの。ケースにベゼル、プレスレットに至るまで、すべて海を思わせるディープブルー仕上げ。先代モデルの魅力を生かしつつ、よりスポーティにアップデートしている。インデックスに国際海洋信号旗を配し、かつ12角形という独創的なデザインは、マリンウォッチでありながらダイバーズとは違った魅力がたっぷり。海好き男のよき相棒となる1本を、見逃す手はない。

CORUM

国際海洋信号旗が映える〈コルム〉の新作。
“ガンブルー”が放つ世界観に
大の大人がドキドキする。

海好きの男は仕事中でも、ふとした瞬間に海に思いを馳せてしまうもの。潮風を全身に浴びながらの海洋航行を想像するだけで、開放感に包まれる。〈コルム〉“アドミラル”の新作“ガンブルー”はまさに、そんな気分を運ぶ。

写真=正重智生 スタイリング=中川原 寛 文=八木悠太 構成=大嶋隼子
photo: Tamoo Syoju(BOLL) styling: Kan Nakagawara(Cu'N) text: Yuta Yagi composition: Keiko Oshima

Information

スベアストラップがもらえる
キャンペーンを開催中。

2019年1月14日(月・祝)まで、今回紹介した新作を含め、全国の正規販売店で“アドミラル”コレクションを購入すると、スベアストラップがもらえるキャンペーンを開催。これは全モデルを対象としたもの。この機会をお見逃しなく。



Admiral Legend 42 Chronograph

【アドミラル レジェンド 42 クロノグラフ】

伝説のヨットレース、アドミラルズカップに挑む男たちに敬意を表して作られたスポーツウォッチ、“アドミラル”の最新作。ヨットで使用するナットをイメージした12角形ベゼルや、海洋信号旗をあしらったインデックスなど、随所に海を感じられる意匠が特徴。42時間パワーリザーブや視認性の高いデイト表示など、実用性にも優れるのも魅力だ。2019年の新作だが、世界に先駆けて11月より日本で独占先行販売中。ケース径42mm、自動巻き、ブルーPVD加工SSケース&プレス、5気圧防水。83万円(コルム/ GMインターナショナル)



1983年発表 アドミラルズカップ

“アドミラル”シリーズが、防水スクエア形から海洋信号旗+12角形デザインへのリモデルを果たしたのが35年前。左の写真は、そのリモデル第1号機となるもの。50代以上には懐かしい名作

CVSTOS

スポーティなスケルトンが鮮烈な〈クストス〉。

お洒落な大人の切り札は
黒着こなしに白時計。

華やかな場所にお呼ばれる機会が増えるこの季節。そんなときのお洒落の切り札として、あえて黒を基調にした着こなしに〈クストス〉の白時計という装いはどうだろう。着飾った女性たちを引き立てつつも、手元だけは鮮烈に。もちろんこの時計、その造形美でもまわりを魅了してくれる。

写真=野口貴司 スタイリング=中川原 寛 文=遠藤 匠 構成=大嶋隼子
photo: Takashi Naguchi styling: Kan Nakagawara(Cu'N) text: Takumi Endo composition: Keiko Oshima



CHALLENGE JET-LINER II P-S AUTOMATIC

【チャレンジ ジェットライナー II P-S オートマティック】

タービンをモチーフにした真っ赤なスモールセコンドは、それを駆動させるために従来は“抑えバネ”というパーツを用いるが、その代わりに機械式時計の大敵といわれている磁石をあえて使用。特許出願中のこの新機構で、スムーズな運針と高精度化に成功した。純白ダイヤルのメカニカルな造形がさりげなく個性を主張する一方、約42時間のパワーリザーブで実用性にも配慮。ケースサイズ53.7×41mm、自動巻き、チタンケース、ラバーストラップ、100m防水。118万円(クストス/ フランクミュラー ウォッチランド東京)

ドレスアップがふさわしい場所に、どんな装いで出かければいいのか？ クロゼットの前でそんな悩みを抱えたことは誰にでもあるのでは？ 解決策としては、着たい服をあれこれ足していくという発想を捨てること。あるいは、着こなし服を黒に絞るという手もある。そもそもブラックはフォーマル色が極めて高いカラー。TPO意識の高さをしっかり印象づけられるし、しかも着る者をキリッと精悍に見せてくれるのも頼もしい。

そして、着こなしの仕上げは〈クストス〉の白時計で。ご覧のとおり、黒を基調

にした装いとこのコントラストが、なんともドレッシーにして好印象。しかも、このモデルは6時位置のスモールセコンドの中でジェット機のタービンを思わせる羽根車が回転するという驚きのギミックも搭載。その構造美がまわりの興味を集め、会話のきっかけ作りにも役立つかもしれない。それにこの時計は、ムーブメントが丸見えのスケルトン仕様。航空機で使われるハイテク素材を惜しみなく投入し、できる限り軽量化に仕上げた贅沢なモデルでもある。ドレッシーに決めつつ話題の提供者であることも忘れない。そんな大人こそ華やかな場にふさわしい。

FRED

〈フレッド〉の“エイト デグリーゼロ”のような
スペシャルなジュエリーを
彼女と自分へのご褒美に。

固く結ばれたノットのようなバックルが、無限や永遠の愛を象徴する
〈フレッド〉の“エイト デグリーゼロ”。曲線が描く洗練されたフォルムと
マリンカラーが、この季節、彼女も自分も輝かせてくれそう。

写真=正重智生 スタイリング=中川原 寛 文=遠藤 匠 構成=大嶋慧子
photo:Tomoo Svyozh(BOIL) styling:Kan Nakagawara(CiVN) text:Takumi Endo
composition:Keiko Oshima



ジュエリーのお洒落は、身につけることに特別感やなにかしらの意味合いがあると一段上の楽しさが味わえる。折しも季節はギフトシーズン。そこで、「これみよがしなペアはちょっと」というカップルにうってつけなのが、〈フレッド〉“エイトデグリーゼロ”のチャーム。銀座本店の晴海通りへの移転を記念した特別なアイテム

で、メゾンの創立80周年を記念して2016年に発表されたコレクション。“8”という数字のモチーフには、無限や永遠の愛といった意味もこめられている。見た目の印象もこの季節にふさわしく実にロマンチック。ちりばめられたダイヤモンドとブルーサファイヤが、南仏の太陽と大海原のような、ブランドの世界観を体現する眩い輝きを放っている。気

品あふれるその佇まいは、休日のリラックスした装いにもずっと馴染み、カジュアルからドレスアップまでどんな着こなしにも気負わずにつけられそう。1年頑張った自分と彼女への“ご褒美”として、ペアはもちろん、シェアジュエリーとしても共有しあう。そんな固く結んだノットのような関係の、2人ならではの楽しみ方も悪くない。

8°0 Collection

【エイト デグリーゼロ コレクション】
2人の輝かしい未来のような
爽やかで上品なラッキーチャーム。
ホワイトゴールドで描いた“8”のモチーフが、ラウンドブリリアントカットのダイヤと海色のサファイヤでひととき華やいだ印象に。シリアルナンバー入りのバックルは数量限定。A:ブレスレット38万8000円 B:ネックレス44万8000円 C:ブレスレットのバックル88万円、ブルーのレザーケーブル5万円(以上フレッド) ※すべて12月1日(土)より発売

RAYMOND WEIL

〈レイモンド・ウェイル〉の“マエストロ”は
ダイヤルの小窓から職人氣質が垣間見える。

時計がコミュニケーションツールになることもある。たとえば〈レイモンド・ウェイル〉の1本はなんと文字盤に穴が。「それ、どこの時計ですか？」なんて聞かれたらシメタもの。そこでオープンワークを持つこの時計の説明を是非。もちろんアナタ自身の売りこみも忘れなく。

写真=正重智生 スタイリング=中川原 寛 文=遠藤 匠 構成=大嶋慧子
photo:Tomoo Svyozh(BOIL) styling:Kan Nakagawara(CiVN) text:Takumi Endo
composition:Keiko Oshima

MAESTRO

【マエストロ】
独自のオープンワークやギョーシェ彫りで魅せながら、強度や実用性の高さを満たした設計に職人技が光る。黒ケースはまさに精悍。今どきのビジネススタイルにも似合うモダンさを併せ持つ。ケース径39.5mm、自動巻き、SSケース、カーフストラップ。各15万円(以上レイモンド・ウェイル/GMインターナショナル)



右:裏蓋はシースルー仕様。自社製ムーブメントの緻密な動きを裏側からも眺められる設計に。左:テンプの動きが見られるのは楽しい。ムーブメントの細部にまで“ペルラージュ”と呼ばれるうるこ状の装飾が施されるのは、上質の証

時計は意外と人に見られているもの。特に男同士の場合、相手の時計を見て人柄やライフスタイルを見極めることだってあるから油断ならない。そして、その点で趣味のよさを語ってくれるのが、〈レイモンド・ウェイル〉の“マエストロ”。なんといってもこの時計はオープンワークという名のとおりに、時計の心臓部が文字盤の小窓を通して鑑賞できる点が魅力。機械式ムーブメントの出来栄に自信がないと見せられるものではない。さらに、“ミュージック&アート”をインスピレーションの源とするブランドらしく、レコード盤を模したダイヤル上のギョーシェ彫りや品格あるローマンインデックスなど、見どころもたっぷり。この時計なら、きっと相手も興味を示さずにはいられない!

Information
期間限定キャンペーンを開催中。
日本全国の正規販売店にて、〈レイモンド・ウェイル〉の各コレクション(“ノエミア”“シヤイン”は除く)をお買い上げの方にもれなくスペアストラップを1本プレゼント。2019年1月14日(月・祝)までの期間限定で開催。

CAMPANOLA

卓越した匠の技で魅せる〈カンパノラ〉。

たとえビジネスシーンでも 手元には天空への夢を宿す。

時計は時刻を知る道具というだけでなく、その人のスタイルを語るもの。多忙な日々の中、ふと手元を見るだけで宇宙への憧れを喚起させる。“時を愉しむ”をテーマに作られた〈カンパノラ〉は、そんな幸福な瞬間をもたらしてくれる。まさに、そこには自分だけの夢やロマンが詰まっている。

写真=正重智生 スタイリング=中川原 寛
文=八木悠太 構成=大嶋慧子
photo: Tomoo Syoju(BOLI) styling: Kan Nakagawara(Ca'VV)
text: Yuta Yagi composition: Keiko Oshima

こゝろり
紺瑠璃



あまいろほし
天彩星



りゆうが
琉雅



ちよのどほし
千夜燈



2 ECO-DRIVE

[エコドライブ]

宇宙との繋がりを直に感じられる革新的な1本。

伝統工芸技術と最新テクノロジーの両得を叶えた、独創的なモデル。文字板の見返し部分にリング状の“フレキシブル ソーラーセル”を配置。宇宙から届く太陽の光をエネルギーに変換して、時を刻む。一方デザインは、6時位置のサブダイヤルに漆塗りの技法を用いて、宇宙船の窓から眺める景色を表現。宇宙空間を想起させ豊かな時を刻む、ロマンあふれるタイムピース。

右上: 漆と螺鈿で宇宙船の窓から眺める漆黒の空間に輝く星々を表現した“天彩星”。ケース径43.5mm、光発電エコドライブ、SSケース&プレス。31万円 右下: “深緋”は漆を丹念に塗り重ね、まだ若い燃える地球を表現。ケース径43.5mm、光発電エコドライブ、SSケース、クロコダイルストラップ。28万円 左: 青漆で地球を表現した“紺瑠璃”。ケース径43.5mm、光発電エコドライブ、SSケース&プレス。31万円(以上カンパノラ/シチズンお客様時計相談室)

こゝろあけ
深緋



1 MECHANICAL COLLECTION

[メカニカルコレクション]

日本とスイスの匠の技を融合した芸術品。

日本とスイスの匠の技を併せ持つ、芸術的な美しさを誇るコレクション。最大の特徴は、漆塗り文字板の美しさ。会津漆の伝統工芸士、備前哲夫が手作業で作り上げた文字板を採用。それゆえに、全く同じものは二つと存在しない。ムーブメントはスイスのラ・ジュール・ベレ社製の機械式を搭載。艶やかで気品ある手元を作り出してくれる。

右: 宇宙の彼方から見た都市の夜景を美しく描いた“千夜燈”。漆黒を背景に金箔と金粉で描き、アクセントに螺鈿を加えて表現したもの。ケース径42mm、自動巻き+手巻き、SSケース、クロコダイルストラップ。80万円 左: こちらは、地上から見上げた満天の星々の大河を螺鈿で表現した“琉雅”。きめ細かく研いだ漆によって、螺鈿細工の色彩が美しく輝く。ケース径42mm、自動巻き+手巻き、SSケース、クロコダイルストラップ。80万円(以上カンパノラ/シチズンお客様時計相談室)

Thierry Marx's Philosophy

FUTURE FOOD*

星付きシェフが描く未来の料理とは？

〈マンダリン オリエンタル パリ〉の総料理長であり、ホテル内に自身の2ツ星レストランを構えるティエリー・マルクス。オルセー大学に設立したラボでは、未来の料理を研究中。彼の考える料理哲学は斬新で面白い！

文=小松めぐみ text: Megumi Komatsu



〈マンダリン オリエンタル パリ〉屋上のベジタブルガーデンに立つマルクス。未来の建物には、食材を自給自足できる生産設備が必要だと、彼は考えている

PROFILE

ティエリー・マルクス

1959年、パリ生まれ。パリの名店でキャリアを積み、2011年に〈マンダリン オリエンタル パリ〉総料理長就任。ホテル内に「シュールムジュール パール ティエリー・マルクス」オープン。開業してわずか半年でミシュラン2ツ星を獲得。

一流のシェフは、料理だけでなく、お客様に対しても深い見識を持っているもの。世界の食通に愛される〈マンダリン オリエンタル パリ〉総料理長、ティエリー・マルクスもその1人。なかでも、彼が教えてくれた料理に対する男女の嗜好の違いが実に面白い。「食事において女性が満足を感じるタイミングは3つ。それは「目で愛で、素材を味わい、そしてもう少し食べたいと思うとき。あともうひと口食べたいというフラストレーションが『美味しいものを食べた』という満足感を誘うのです。男性は量に満足しますが、女性はそうではないのです。だから、女性を食事に誘うときは、

この男女の違いを知っておくといいてすね」。思わずハッとさせられる料理人ならではの洞察力だ。もちろん、彼のその能力は「食」への斬新な取り組みにも生かされている。「料理は食べればなくなる偽い芸術。残るのは思い出だけです。だから、私は「感動」という思い出を持ち帰っていただきたい。しかし、感動は革新の先にしか存在しないのです。そして革新には、リスクが伴います。新しいものを作り出すには、リスクを承知で実験を繰り返すしか方法はないのです」
その言葉どおり、マルクス氏は厨房とは異なる実験施設「フレンチ・フード・イノベーションセンター」を2012

年に設立。なんと、分子調理学の科学者とともに新しいフレーバーや食感、革新的な調理法などの実験に取り組んでいる。「研究は長期的な視点を持つことが大事。たとえば2050年に照準を設定したら、そこから現在を振り返る。すると、今なにをするべきなのかが見えてくるのです。未来には、建物はその建物内で食物を生産し、発電もするということが私の理想です。だから私は今、自給自足ができる「自立型の建物」を研究しています」。ホテルの屋上ガーデンは、そんな研究の第一歩。今後彼の料理哲学から目が離せない。



右:宇宙飛行士トマ・ベスケの要望で、宇宙食の研究もするマルクス。写真では無重力訓練を体験中。左:歴史ある建物を利用した重厚感のある〈マンダリン オリエンタル パリ〉は、パリ市内中心部という好立地

DATA

Mandarin Oriental, Paris
251 RUE SAINT-HONORÉ, PARIS, FRANCE
☎+33-1-70-98-78-88
<https://www.mandarinoriental.co.jp/paris/>

マルクスの考える2050年。世界の環境を見据えた「料理」のあり方とは？

2050年の地球は人口が97億人に増え、水不足になると予測される。そのため、水を大量に消費する家畜の飼育を控える必要があるとマルクスは言う。未来のコース料理は、2割が動物性タンパク質で8割が野菜になる。さらに彼は未来の水対策をもう1つ考えているようだ。それが、野菜の水分の活用。たとえば95%が水分のトマトは、フランスでは旬の時期に月間30t廃棄されているのが現実。そのトマトから水分を抽出すれば、飲み物や農業用水として使える。料理人は、水分を抽出した後の果肉や皮、種を使うレシピを開発することで、水不足解消に貢献できるのだ。



上、右:近未来的な内装の「シュールムジュール パール ティエリー・マルクス」と、店内で提供される液体窒素を使った料理「貝の瞬間ジュレ」



FREDERIQUE CONSTANT

〈フレデリック・コンスタント〉なら 美しいダイヤルに 遊び心と品格あり。

ビジネスでのドレスコードが変わりつつある今、時計もそれに合わせて選択肢が広がってきている。そこでおすすめしたいのが〈フレデリック・コンスタント〉の「クラシック カレ オートマチック ハートビート」。シックな中にもモダンテイ薫る、新しい時計のビジネスコードがここにある。

写真=野口貴司、スタイリング=中川原 寛
ヘア&メイク=松本 恵 文=柴田 亮 構成=大嶋 隼子
photo: Takashi Noguchi styling: Kan Nakagawara(Ca'N)
hair: Senke-up Megumi Matsumoto's (OL'ISSÉ)
text: Mitsuru Shibata composition: Keiko Ochiai



Classics Carree Automatic Heart Beat

〔クラシック カレ オートマチック ハートビート〕

日本限定はブラックMOPの文字盤に、ネイビーストラップとブレスレットを組み合わせた特別仕様。各300本限定。ケースサイズ33.3×30.4mm。自動巻き、SSケース。右: 18万5000円。左: 20万5000円(以上フレデリック・コンスタント/フレデリック・コンスタント相談室)



ハートビートとは？

ハートビートは、〈フレデリック・コンスタント〉が1994年に世界ではじめて考案した。本格機械時計の証であり、「手の届くラグジュアリー」を標榜するブランドの精神を象徴する

エレガンス、アクティブ、スタイリッシュの三拍子が揃った、新たなビジネスウォッチ。

これまでビジネスにふさわしい時計といえば、控えめサイズのシンプルなドレスウォッチだった。しかしビジネスファッションも多様化が進み、新たなスタイルが求められている。「クラシック カレ オートマチック ハートビート」はその筆頭格だ。エレガントな角形ケースに、文字盤には小窓を設け、内蔵するムーブメントの動きを見て楽しめる。さらに日本限定モデルは、文字盤にブラックMOPを採用。普段は落ち着いた色だが、光を受けると多彩に印象を変え、男の艶感を演出。ビジネス相手にも礼を失しないエレガントなフォルムと、ハートビートのアクティブさ、MOPのスタイリッシュさの三拍子が揃った注目作だ。

Information

30周年を記念し、キャンペーン開催中。

今年ブランド創業30周年を迎え、来年1/14(月・祝)までキャンペーンを開催。期間中に正規販売店で対象時計を購入すると、純正バックルやストラップ等をプレゼント。また今回紹介したモデルには、シルクポケットチーフが付属。

シルクのポケットチーフはこの時計を買うともらえる。スーツ10万5000円、タイ1万1000円(ビームスF、ビームス 六本木ヒルズ)、B Dシャツ2万6000円(エリッコー フォルミコラ、ビームス 六本木ヒルズ)、ベスト2万6000円(グランサッソ、ビームス 六本木ヒルズ)



“ピクニック・ベンチ”は
遊び上手な大人の特等席。

本気で遊ぶ大人が欲しかった機能を満載。

自然の中に繰り出し、絶景や動物を撮影するアクティブ派のドライブでは、どうしても荷物が増えがち。絶景ハントに使う一眼レフ用のレンズも多数用意していきたいし、泥まみれになっても歩けるブーツも持っていきたい。“MINIクロスオーバー”の車内は、後部座席が分割可倒式で前後のライドも可能なので、荷物の量に応じてスペース取りが自由自在。足をかざすだけでリアハッチが自動的に開く機能も備わっていて、両手が荷物でふさがっているときも出し入れがスムーズだ。しかも、オプションのピクニック・ベンチを引き出せば、準備をしながら小休止をすることも。行動派に最適なクルマとは、まさにこういうことなのだろう。

ジャケット4万9000円（バブアー／バブアー 銀座店）、ブーツ4万1500円（レッド・ウィング/レッド・ウィング・ジャパン）、その他はスタイリスト私物



自然と遊ぶときは道具も
クルマも大切な相棒。

**THE MINI
JOHN COOPER WORKS
CROSSOVER**

- 全長×全幅×全高:4315×1820×1595mm
- 駆動方式:4輪駆動
- エンジン:2.0 4気筒DOHC MINI ツインパワー・ターボ
- 最高出力:170kW(231ps) / 5000rpm
- 最大トルク:350 Nm / 1450 ~ 4600 rpm
- トランスミッション:8速AT
- 税込み価格:579万円～(AT)

JOIN COOPER WORKS

ライフスタイルに寄り添う〈ジョン・クーパー・ワークス〉は
**乗ること自体が楽しいうえ
週末の相棒としても頼もしい。**

〈MINI〉のハイパフォーマンスモデルに位置づけられる“ジョン・クーパー・ワークス”。1950年代にF1マシンのミッドシップ革命をもたらしたレジェンドの名を冠しているだけに、その走行性能と乗り味はまさしく最上級。“相棒”として迎えば、心が躍る週末に誘ってくれそうだ。

写真=田中丸善治 スタイルリング=中川原 寛 ヘア&メイク=松本 恵 文=遠藤 匠 構成=大嶋 隼子
photo:Zenbun Tanakamaru styling:Kon Nakagawara(CaVN) hair&make-up: Megumi Matsumoto(ex*QI ISSE)
text: Takumi Endo composition: Keiko Oshima



THE MINI JOHN COOPER WORKS

Crossover

自然の懐に飛びこむ休日は、4WDモデルの力強さも爽快な走りで。

自慢の一眼レフを抱えて、“絶景ハンティング”へ。そんなアクティブな週末の相棒は、SUVモデルの“MINIクロスオーバー”。なかでもこの“ジョン・クーパー・ワークス”は、高出力ターボエンジンを搭載し、4WD特有の力強い走りに磨きをかけている。前後の駆動力配分を可変制御する機構のおかげで、悪路での安定感も抜群。0-100km/h=6.5秒という加速性能の高さも自慢なので、目的地までのドライブも爽快このうえない。

レッドフレームグリルは、“ジョン・クーパー・ワークス”モデルを特徴づける意匠。路面状況に応じてフロントとリアのアクセル間で最適な無段階的にトルクを分配する駆動システムで、走りの質を高めている。ライダーズジャケット15万円、ニット4万円(以上ポール・スミス/ポール・スミスリミテッド)、デニムパンツ3万2000円(レッドイヤー/ポール・スミスリミテッド)、腕時計2万9000円(JCWライフスタイルコレクション/MINIカスタマー・インタラクティブ・センター)、その他はスタイリスト私物

THE MINI JOHN COOPER WORKS

Clubman

インテリアにもあふれる特別感。

コックピットもプレミアムな仕上がり。カラダをしっかりとホールドしてくれるスポーツシートは、黒と赤を基調にした「ジョン・クーパー・ワークス」ならではの配色に。ステアリングは、手に心地よく馴染むレザー製で、ボディと同じ赤を効かせた配色というのも洒落ている。伝統を感じさせるスプリット・ドアは、ラゲッジ・スペースの下に足をかざすだけで開くので、愛犬を素早く乗せて出発したいときにもとても便利。



車両をネットで繋げて
スマホ機能も活用できる。



個性的かつ特別でありたい
と願う大人の“相棒”。

バッグ6万8000円（アニアリ/ブルーム）、サングラス1万9000円、ウォーターボトル3900円（以上JCWライフスタイルコレクション）、MINIカスタマー・インタラクション・センター

THE MINI JOHN COOPER WORKS CLUBMAN

- 全長×全幅×全高:4270×1800×1470mm
- 駆動方式:4輪駆動
- エンジン:2.0 4気筒DOHC MINI ツインパワー・ターボ
- 最高出力:170kW(231ps) / 5000rpm
- 最大トルク:350 Nm / 1450 ~ 4600 rpm
- トランスミッション:8速AT
- 税込み価格:538万円～(AT)

ボディサイズは、初代と比べると全長280mm、全幅は115mmも拡大され、グッとゆとりのある車内空間に進化。さらにリアシートを倒すことで、ラゲッジ・スペースの容量は1250ℓまで拡大可能になっている。これなら運転する自分自身はもとより、愛犬もゆったりとドライブを楽しめそうだ。スウェードブルゾン22万円（イチキュー・ヨンゴシーエー/ストラスブルゴ）、ニット3万8000円（クルチアーニ/ストラスブルゴ）、チェックシャツ3万2000円（バルバ/ストラスブルゴ）、コーデロイバント3万9000円（PT01/ストラスブルゴ）、ニットタイ1万1000円（ソツツイー/ストラスブルゴ）、その他はスタイリスト私物

特別感のあるスタイルが、街ドライブの質と快適さを高める。

心地よい日差しに誘われ、ついつい外出してみたいくなる休日。そんなときの“相棒”となるクルマには、“MINIクラブマン”のように街をキビキビと移動できる足まわりのよさを求めたいもの。しかも、この“ジョン・クーパー・ワークス”仕様は、エアロパーツや19インチの専用アルミホイールを装備し、精悍さも併せ持つスタイリングで見た目も爽

快。深みのあるグリーンのボディに対し、あざやかなレッドのルーフという特別感のある配色も、街クルーズをプレミアムな時間に変えてくれる。ハイパフォーマンスモデルであることを特徴づけるエンブレムをあしらったボディも、優越感を高める要素。その誇らしげなスタイルをアピールしたくて、ドライブに繰り出す機会も増えそうだ。

For First Class Passenger

AIRPORT LOUNGE*

極上のおもてなしは空港からはじまっています。

空港で待ち時間が長かったらどのように過ごしたらいいのだろうか。ファーストクラスを利用したなら答えはひとつ。迷わずラウンジへ。そこには、贅沢で驚くようなお楽しみが待っている。

写真(カタール航空、スイス インターナショナル エアラインズ) & 文=たかせ藍沙
photo&text : Aisha Takase

フ ザーストクラスラウンジなら、空港での待ち時間が短く感じられるはず。特に、ここでご紹介する豪華ラウンジでは。

なにかと豪華さが話題になる中東のエアライン。なかでも最も新しく、最も豪華と噂されているのがカタール航空のドーハにあるラウンジだ。中に入って最初に驚くのは天井の高さ。まるで体育館のよう。そこには美術館級の調度品が飾られ、何日も暮らせそうなくらいの充実した施設が整っている。2カ所のダイニング、バー、ファミリー向けの半個室、ゲームセンター、授乳室などなど。有料ながらスパや免税店もラウンジ内にある。

スイス インターナショナル エアラインズのチューリヒのファーストクラスラ

ウンジは、2年前に全面リニューアルされたばかり。200種類を揃えるウイスキークラブや、ワインセラーの充実度もハンパない。シェフが一皿一皿手をかけて作るテイastingメニューでは、ワインのペアリングもしてくれる。

フランクフルトには、ルフトハンザドイツ航空のファーストクラスターミナルがある。シガーバーがあるのも特徴だ。ラウンジから機内まで専用車で送迎してくれるので、ギリギリまでラウンジでくつろぐことができるのは嬉しい。

タイのバンコクにあるタイ国際航空のラウンジでは、無料で60分のフルマッサージを受けることができる。人気のサービスなので、ラウンジに着いたらすぐに予約してみてもはどうだろう。



見上げてしまう豪華ラウンジに口元が緩む
入り口から入ると広がるアトリウム。巨大なお盆は天井から水が流る受け皿。左側にあるソファが小さく見える



QATAR AIRWAYS

【カタール航空】

A:ラウンジ内にあるビジネスセンター。各テーブルがガラスで仕切られた個室になっている。まるで映画に出てくるエグゼクティブ用の個室オフィスのような B:レストランは2カ所にある。こちらはバーラウンジが併設されたメインレストランの一角。空間の使い方は巷の高級レストランよりも贅沢だ。キッチンを見ることができるカウンターもあって、どこに座るのが迷うほど



60分たっぷりの本格的マッサージ♡

アジアンスパの本拠地でもあるタイ。ラウンジでは、60分のフルマッサージを受けることができる。これは幸せ



THAI AIRWAYS INTERNATIONAL

【タイ国際航空】

A:ラウンジ内にあるアラカルトダイニングルームでは、一流シェフによる本格的な料理を存分に楽しむことができる B:スパでマッサージを受けたり、美味しい食事をいただいたりした後は、ゆったりとしたスペースのラウンジへ。快適なソファで搭乗時間まで待つことができる。落ち着いたインテリアは、タイらしいアジアテイスト。南国の花である蘭が飾られていて、心が和む



ホテルのような仮眠室で熟睡。

なんとシャワーとトイレも完備。ゆっくり休むことができる。窓からは滑走路を歩き来たる飛行機を望む



SWISS INTERNATIONAL AIR LINES

【スイス インターナショナル エアラインズ】

A:ラウンジ内にあるウイスキークラブ。200種類以上のウイスキーを楽しむことができる。まずは美女がすすめてくれるウエルカムドリンクのシャンパンから味わってみよう B:天然の建材を多用しているファーストクラスラウンジは、仕切りもガラスではなく木材で、ほどよい目隠しをしている。ここにはワインとペアリングしたテイastingメニューがあるので、時間があったら是非試してほしい



バスタブに浸って旅の疲れがとれる。

フランクフルトでは一部バスルームにバスタブがある。熱いお湯にカラダを沈めてから機内でぐっすり眠りたい



LUFTHANSA GERMAN AIRLINES

【ルフトハンザドイツ航空】

A:ファーストクラスラウンジはバーもダイニングも充実しているので、食べすぎ飲みすぎと次の便の乗り遅れに注意が必要!? B:フランクフルトには、メインターミナルとは別に、ファーストクラスの搭乗客のためだけに造られたファーストクラスターミナルがある。飛行機を降りたら、(メルセデス・ベンツ)の専用車で直接ラウンジへと送り届けてくれる。空港内を延々と歩く必要はない



DUNHILL

極上素材の英国コートは 風格も暖かさも一段上。

貫禄出しという点で無視できないのが、英国スタイルのキリリとしたコート。この〈ダンヒル〉の新作は、ウールにモヘアとアルパカをブレンドしたラグジュアリーな服地を使用。だからドレープが極めて美しく、無造作なシワにさえ独特な雰囲気がある。ボリュームミーなファー襟がひと際リッチに見えるのも、この服地の底上げ効果のおかげといえるだろう。しかも、この上質素材は保温力もすこぶる高い。寒いとついカラダがこわばってしまうことが多い今日この頃。このコートなら表情にも余裕が出そう。

〈ダンヒル〉が得意とするクラシカルなロングコートは、構築感のある肩も特徴的。シックで伝統的なヘリンボーン柄だが、モダンにして都会的な雰囲気も上々。その着心地は見た目にして軽やかだ。コート52万円、ジャケット28万円、ハイネックニット8万6000円、パンツ7万1000円、ブーツ12万7000円、ストール4万6000円(以上ダンヒル)、メガネ8万3000円(ダンヒル/デリーゴジャパン)、その他はスタイリスト私物

ムートンコートを選ぶ人は 貫禄があつてあつたかい？

たとえば、休日の街をぶらりと歩くと。いかにも仕立てがよさそうなウールコートも悪くはないが、もっと洒落つけを楽しみたいときもある。そんなときは、〈エルメス〉のムートンコートの出番。羊の革と毛の優しいタッチを堪能できる素材感は、見た目からして優雅でリラックスした雰囲気。しかも、カラダを包みこむようなたっぷりとしたシルエットだけに、貫禄魅せにひと役買ってくれるのは間違いない。とはいえ、気取りは禁物。休日はリラックスして楽しみましょう。

ボディカラーは、ありそうでなかなかないアイボリー。ランチコートなどに使われるムートンのような土臭さが一切なく、品格あふれる佇まいに。清潔感の演出にもひと役買ってくれる。ムートンコート213万円、ハイネックニット27万9000円、ハイネックシャツ7万6000円、パンツ12万7000円、ハット7万2000円、手に持ったグローブ16万4000円(以上エルメス/エルメスジャパン)、その他はスタイリスト私物



HERMÈS

リッチなファーで優雅な気分。

そろそろ貫禄に見合った コートを着てみよう。

経験を重ねて得た自信と貫禄は、大人にとって大きな武器。服装も、そんな貫禄と釣り合うものを選択。自身の魅力をさらに高めたい。冬はとりわけコートがその役割を果たしてくれる。選びたいのは、エレガントなファー付きのタイプ。背伸び感なしでこの優雅さが様になるのは、やはり大人の特権だ。

写真=野口貴司 スタイルリング=中川原 寛 ヘア&メイク=松本 恵、Hanjee

文=遠藤 匠 構成=大嶋慧子

photo: Takashi Noguchi styling: Kan Nakagawara(CuVN) hair&make-up: Megumi Matsumoto(es*QUISSE), Hanjee(Signo) text: Takumi Endo composition: Keiko Oshima



ERMENEGILDO ZEGNA

ドレスアップの決定打は 美しすぎるチェスターコート。

ドレスアップするときに印象づけたいのがスタイリッシュさ。イタリアの名門(エルメネジルド ゼニア)のこの1着は、まさしくそれが叶う理想形かもしれない。流麗なシルエットにして、見た目にも上質感が伝わる艶のあるボディは、キャメルとシルクを混紡したカシミヤを使用。幅広いラベルはもともと貴族の演出効果が高いが、そこにファーをあしらうことでお洒落自体の格がぐっと上がって見える。でも、こう見えてふわりと軽やかな着用感。そこは贅沢素材ならではの持ち味だ。

きれいなウエストラインにより、さらりと羽織るだけでもグラマラスなシルエットを印象づけられる。ラベルにあしらったファーは着脱式で、シンプルなチェスターコートとしても着こなすことができる。コート71万5000円、ジャケット35万円、シャツ6万7000円、パンツ8万1000円、ネクタイ2万3000円、グローブ10万9000円、サングラス4万7000円(以上エルメネジルド ゼニア/ゼニア カスタマーサービス)



BRIONI

大人の階段を上った 品格漂うビーコート。

若い頃から慣れ親しんだビーコート。あの独特の佇まいがたまらないという人も多いかもしれない。でも、もし今ビーコートを着たいと願うなら、年相応のアップグレードを図らないと貴族出しは望めない。そこで、(ブリオニ)が手掛けたこの1着はどうだろう。ご覧のとおり襟だけではなく、ボディも子羊のムートン仕立て。しかもそれが海軍カラーのネイビーというのが洒落ている。気軽に袖を通せるのに、圧倒的なクラス感を演出できるこの1着。そのオーラの強さには驚くばかりだ。

品よく着こなせる一方、黒ほど重くなりすぎずにコーディネートがしやすい点も濃紺ムートンの魅力のひとつ。水牛ボタンには、セーラーモチーフの装飾を施すなど、細部にもイギリス海軍のテイストとクラフトマンシップが見え隠れする。ビーコート138万2000円、ハイネックニット参考商品、パンツ17万5000円、スカーフ7万8000円(以上ブリオニ/ブリオニ ジャパン)、その他はスタイリスト私物

To the mysterious world! SUITEROOM IN BLUE*

水面下の神秘体験を部屋の中で味わう。

魚の群れが流れ、カメが目を通りすぎる。水面下に繰り広げられる魚たちの社会をガラス越しに観察。泳げなくても、もちろん洋服のままでも大丈夫。だって、この水中世界はお部屋で満喫できるのだから!

文=古関千恵子 text: Chieko Koseki

01

究極の贅を叶えた神秘的な海中スイート

CONRAD MALDIVES RANGALI ISLAND

【コンラッド・モルディフ・ランガリ・アイランド】 in Maldives

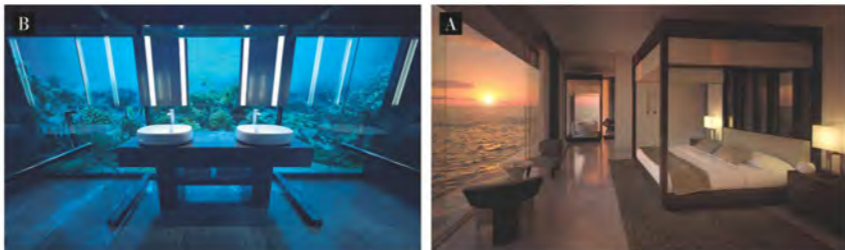
DATA

①Rangali Island, 20077, Maldives
☎+960-668-0629 www.conradmaldives.com

昼と夜とは魚たちの動きは異なる。この客室内なら24時間海の生物をウォッチングできる。地上ももちろん楽園です。

世 界初の水中レストランで話題を振りまいた「コンラッド・モルディフ・ランガリ・アイランド」が、海中スイートを2018年11月にオープン。その名もモルディブの言葉で「サンゴ」を意味する「ザ・ムラカ」。設計と技術を手掛けたのは水中レストランと同じニュージーランドの会社。インテリアは美しいラインを生かしたミニマルスタイル。

建物は水中に1Fと海上に1Fの二層構造。弾性アクリル素材を使った水深5mの部屋は、ベッドルームにリビング、バスルームからなり、海の眺めをぐるりと堪能できる。海上の1Fには朝日を望むインフィニティプールやサンセットのためのデッキがある。もちろんベッドルームやバスルームに加え、バトラーのための部屋まで備えている。贅沢な海中スイートで素敵な夢を。



A: 海上上の1Fにはサンセットを迎えるデッキと、サンライズが美しいインフィニティプールが。さらにツインやキングサイズベッド、バスルーム、パウダールーム、キッチン、バー、ダイニングルーム、フィットネスジム、バトラー用の部屋も B: 水中スイートにはバスルーム、リビング、ベッドルームが。最大9名まで収容可能

03

沖に浮かぶデッキで海も空も満喫

THE MANTA RESORT

【ザ・マンタ・リゾート】 in Tanzania



DATA

①Manta Resort, Psv-zanzibar estate, Tanzania
☎+255-776-718-852
www.themantaresort.com/

人 ンバ島にあるココの「アンダーウォーター」は、リゾートの沖250mにぽつりと浮かぶ。1Fはラウンジとバスルーム、ハシゴを下りると、ほぼ360度のガラス窓に囲まれたキングサイズベッド。昼は揺らめく太陽光、夜は周囲のライトアップが幻想的だ。食事は事前に決めた時間にサーブされ、シーカヤ

ックやシュノーケリングセットの用意も。なにかリクエストがあれば、携帯電話で呼び出しもできる。全天を星が覆う天井で眠るのもいい体験。

上: シーカヤックやシュノーケリングなどの海遊びも楽しめる 左: まわりにはなにもない、沖250mに浮かぶ唯一のデッキ

02

窓の外は、まるでプライベートな水族館

ATLANTIS THE PALM

【アトランティス・ザ・パーム】 in United Arab Emirates



左: ベッドが水族館に面した配置。朝目覚めたら、水中の古代遺跡が目の前に 上: 23カ所ものレストランの中には水族館ビューもある

DATA

①Atlantis, The Palm, Crescent Road, The Palm, Dubai, United Arab Emirates
☎+971-4-426-2000
www.atlantisthepalm.com

人 工島のパーム・ジュメイラ内にある豪華なメガリゾート「アトランティス・ザ・パーム」。46ヘクタールもの敷地にある、ロストチェンバー水族館は世界屈指の規模を誇る。この水族館を24時間眺められる客室が「アンダーワータ

ースイート」。床から天井までの大きな窓に、アトランティス古代遺跡をモチーフにした水中世界が広がる。そこには約6万5000匹の海洋生物がス〜イスイ。浴室からもバスタブに浸かりながら、水族館を満喫できる。2フロアからなり、陸上生活(?)もできる。

SYMPATHY



HORSESHOE RING

【ホースシューリング】

存在感のあるリングが手元を華やかに飾る。

ネックレスのトップに用いられることが多いモチーフだけに、リングになると新鮮。右はホースシューが向き合ったデザインで、180度回転させるとダブルリング風になる。着こなしに応じて2つの表情が楽しめる。左はボリューム感たっぷりのカレッジリング風で、天地を逆にしてもつけられる。どちらもダイヤの煌きが華やかさを誘い、パーティなどでも活躍しそう。

右: 個性も際立つ「ダブルホースシューリング」。K18YG×ダイヤ21万円〜 左: 「コンビネーションホースシューリング」。SV×K18YG×ダイヤ17万5000円(以上シンパシー・オブ・ソウル/ S.O.S.jp)

SYMPATHY OF SOUL

プレミアムな〈シンパシー・オブ・ソウル〉は見た目もリッチ。

2人の思いを形にするなら 幸運を呼ぶホースシューで。

古くから幸運を招くモチーフとして、アクセサリーなどに用いられているホースシュー。「馬蹄」のイメージから武骨でカジュアルな印象は強いが、〈シンパシー・オブ・ソウル〉ならラグジュアリーなアレンジで品がある。その洗練されたデザインは大人によく似合い、女性向けのサイズも揃うので、プレゼントリストに加えてみては?

写真=池田佳史 構成&文=荻原嘉人
photo: Yoshifumi Ikeda(BOLL) composition&text: Yoshito Ogucara

HORSESHOE NECKLACE

【ホースシューネックレス】

パーティで目を引くのはリッチな胸元アクセ。

ブランドを象徴するモチーフだけに、ホースシューのネックレスは豊富。チャーム付きやターコイズ入りもいいが、大人だったらラグジュアリーな1本を狙いたい。たとえば、こんなダイヤがちりばめられたホースシューなら、胸元での存在感もひとしお。とりわけ左のプレミアムコレクションは、モチーフが大きくダイヤの数も多いので、華やかなシーンでも活躍してくれそう。

右: 「ホースシューアミュレットペンダント」。K18YG×ダイヤトップ8万8000円、K18YGチェーン6万5000円 中: 「ホースシューラージペンダント」。SV×ジルコニアトップ2万8000円、SVチェーン7000円 左: 「ホースシューXLペンダント プレミアム」。K18YG×ダイヤトップ35万円、K18YGチェーン8万8000円(以上シンパシー・オブ・ソウル/ S.O.S.jp)

